NO.324

ARCHITECT

2015. 9. SEP.

CONTENTS

自作自演193 …… 日吉康行・小田英一・平野恵津泰・寺下　浩 …… 2

第2回　フランスと日本の関係～対外文化政策のいま～
「アンスティチュ・フランセ東京―現代芸術を伝える場―」 …… 松本茂章 …… 4

新連載　だれもが知ってる建築史のはなし
「測る」 …… 溝口正人 …… 6

JIA静岡発　第2回建築ウォッチング
「世界遺産・富岡製糸場と上州の名建築をめぐる」建築ウォッチングの旅 … 増澤信一郎 …… 8

JIA愛知発　住宅研究会　連続環境セミナー・スタートアップセミナー2
「ふすま」で「さんぽ」してきました！ …… 吉元　学 …… 10

JIA愛知発　住宅研究会「タカラスタンダード㈱名古屋工場」見学会 …… 田中英彦 …… 11

JIA三重発　会員研修会報告 …… 松本正博 …… 12

▶東北からのメッセージ
防災まちづくりの入口 …… 森岡茂夫 …… 13

第22回JIA東海卒業設計コンクール2015に入賞して
―金賞・銀賞受賞者の声― …… 杉岡 敬幸・藤田恭輔・下釜健吾 …… 14

新理事になって …… 鈴木利明 …… 16

「新国立競技場建設についてJIAの提言」の経緯 …… 石田　壽 …… 17

理事会レポート …… 鳥居久保 …… 18

東海支部役員会報告 …… 矢田義典 …… 19

保存情報166　長島山崇覚寺（ちょうとうさんそうかくじ） …… 神谷勇雄 …… 20
名古屋カテドラル　聖ペトロ・聖パウロ大聖堂（通称：カトリック布池教会） … 森口雅文 …… 20

東海とっておきガイド ㊷　愛知編 …… 黒川喜洋彦 …… 21

地域会だより …… 21

残暑見舞い広告 …… 22

Bulletin Board …… 23

法人協力会通信⑲　ホクセイ㈱ …… 吉澤智博 …… 24

編集後記 …… 牧ヒデアキ・前田左智男 …… 24

東海の集落 5

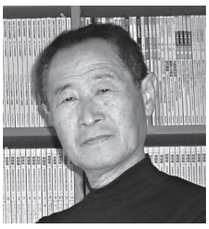
岐阜県中津川市加子母から国道四一号線に抜ける白川街道。飛騨川の支流である白川に沿って山間を縫うように走っている。その飛騨川との合流地点から上流四kmほどのところに和泉という集落がある。白川の河岸に護岸をつくり、川ぎりぎりのところまで建物が迫っている。現在は対岸に県道六二号線が整備され車両が行き来しており、その県道側から表紙写真の風景が望めるが、密集地域でもないこの地域に護岸崩壊リスクのある場所に建物を建てたのか、不思議な感じを抱く。白川町は東濃桧の産地であり、また白川茶でも知られる町である。飛騨と美濃を結ぶ飛騨川沿いの飛騨街道（国道四一号）と白川街道が交わっており、林業、農業そして流通の要衝として発展してきた。この和泉地区をはしる白川街道だが、この地域に限りかなり川に近くにある。街道沿いに発展したまちは商業を主として街道を行き来する人や地域の人のために機能してきたと考えられる。その集落の発展途上、川と街道の狭い場所を有効利用するためこのような建て方をしてきたと考えるのが自然なようだ。護岸も部分的にコンクリートとなっているが、河原から採れる角の取れた丸石を積み上げてできた護岸は、清流と深緑に溶け込んだ迫力ある景色をつくっている。

白川街道のまち並

生津康広
生津建築設計室アーキハウス

09_アーキテクトcs6.indd 1　15/08/20 17:06

自作自演⑬③



日吉　康行（JIA静岡）

日建築設計事務所（御殿場市川島田421-1　TEL 0550-82-1389　FAX 0550-83-6341）

食べる

子どものころ、夏になると暑さで食欲不振になり、夏休みが終わって学校で身体測定をすると、体重が激減していました。もともと痩せている上にさらに夏痩せが加わり、あばら骨が見えて洗濯板みたいでした。今となっては食欲旺盛で夏痩せもせず、無駄な脂が蓄積する始末です。ビールが良くないのかなぁ。

以前までは食べることに飽くなき興味と探求心で、いろいろな食材やさまざまな食べ物店を探し求めて食べ歩くことが楽しみでしたが、もうそのような欲は薄れてきたように思います。

子どものころから食べてきた「煮っ転がしやキンピラ」など、ごく普通の食べものが、懐かしいばかりでなく、自分の体に合っているように思います。それはずっと食べ続けてきた、いわゆるおふくろの味の「和食」そのものです。

和食は海外では健康的な「食」として評価が高く、日本でも見直されているのはご存知の通りです。和食といっても、特に南北に長い日本は海や山の幸など、地域独特の食べ物がそれこそ千差万別にあります。それらの食べ物は地域性に富み、日本人はその食材とともに長年暮らしてきました。漬物だけをみても地域独特のびっくりするほどの種類があります。

そんな地域で培われ、長年食べられてきたものを食すのが一番の健康法かもしれません。ネットで検索して、普段食べたことのない名産品を今日頼むと明日には届く時代ですが、そこまでせず、地方の名物や特産品は、旅をしたときにその土地で食べるからこそ美味しく、感動するものかもしれません。

建築も気候風土や地域特性を考慮して計画するように、食べることも、自分の郷土の産物を、四季を感じながら、ご馳走はなくとも家族で楽しく食べる、そんな時間が大切に思える今日このごろです。

小田　英一（JIA愛知）

青島設計（名古屋市中区大須4-1-51　TEL 052-262-2341　FAX 052-264-9392）

オスロオペラハウスを訪ねて

7月の始めにノルウェーのオスロ市に建設されたオペラハウスを訪問した。6月下旬から始まっているバカンスのため観光客以外の市民はちらほらの様子。コンペで当選したこのオペラハウスは屋根全体が傾斜しており構成が斬新だ。

ガイドの説明では当日曇天で幸運だったとのこと。理由を聞けば全体が白の大理石張りであり晴天の日では太陽の反射光で目も開けていられないとのこと。

写真で見るとおり全体が傾斜しており端部ではそのまま海に入り込んでいる。日頃の設計活動ではまず考えられないことばかり目に付く。傾斜自体がバリアフリーではない。転がっていけば海へダイビング。パラペット際は巾の広い排水溝の形状で段差の部分は手すりもない。大理石の表面も雨風にさらされ風化が進んでいる。ところどころ磨きの凹凸がつけてあり注意しないとつまずくし滑る―などなど、数え上げればきりがない。

スノヘッタ設計　オペラハウス

海から突き出た氷山のイメージなのだろうか日本では何一つ認められないだろう。臨月を迎えそうな妊婦さんが大きなお腹を突き出して堂々と歩いてすれ違った。ほんとに大丈夫だろうか。

すべては自己責任、価値観の違いとはいえ心配事ばかりのオペラハウスである。日本では考えすぎの安全指導もあるが。

09_アーキテクトcs6.indd　2　　15/08/20　17:06

平野　恵津泰（JIA愛知）

ワーク・キューブ（名古屋市昭和区福江1-7-2　TEL 052-872-0632　FAX 052-872-0633）

50歳を迎えた今年

今年、50歳を迎えた。50歳というと世間では、どう捉えられるのであろうか？ 正直、自分も年齢的には十分に年を重ねたと感じていた。

「もういい年だから。」とか、「これから、新しいことを始めるのは遅すぎる。」とか、「あと10年もすれば60歳、それまでに、できることは限られる。だからせめて、悔いが残らぬように、これだけのことはなしておこう。」などと、50歳になるまでは、なんだか、ネガティブなことばかり考えていた。当然、そのときの自分は、ネガティブなどとは思ってもいなかった。むしろ、年相応の考え方と思い込んでいた。

ところが50歳を迎えたある日突然、どうして自分の領域を自分で限られた範囲に留めようとするのか、なぜ、新しいことへのチャレンジを諦めてしまうのか。これまで疑ってもいなかった、年相応の考え方？ は違うんじゃないか、という思いに至った。年相応ってなに？ 誰が決めて、誰に許しを請うのか？ もっと自分の可能性にかけてもいいんじゃないか。そんな気持ちになれたのも、この50歳を迎えたことによるものであろう。

まだまだ50歳、自分が、どれだけのことができ、どこまで行けるのか、全くもって想像がつかない。しかし、諦めることは何もないし、新しいことにもどんどんチャレンジしていきたい。明日も、また一つ新しいスタートを切ろう。

寺下　浩（JIA岐阜）

smilo architects unit（名古屋市中村区大日町1-5 酒井ビル2F-B　TEL 052-481-0388　FAX 052-481-0384）

自然界と人間界の境界にて

昨年、平地のマンションから山沿いの一軒家に引っ越しました。1970年代の高度成長期、大規模に山林を切り開いて開発された住宅団地の一角です。朝は虫の声と鳥のさえずりで目覚める自然豊かな環境です。

この地に移ってたった一年しかたっていませんが細やかな日々の変化、季節の移り変わりを感じることができました。

夜、外灯がない山側は恐ろしいほどに真っ暗闇、その暗闇に光る月光と星空が儚くてとても美しいこと。春の時季しか鳴かないと思っていたウグイスが夏になりセミが出てくるころまで毎日さえずっていることなど数えあげたらきりがありません。

また、付近ではさまざまな野生の生き物（タヌキ、キツネ、アナグマ、アライグマ、イノシシ）が出没し畑の農作物を食い荒らしていきます。裏山には畑を守るため、先般世の中をにぎわせた電気柵も設置されています。出没というか、もともと生き物たちが住んでいたところに、人間達が急に出没し住みつき始めたのですが……。やっかいな人間たちが来たなぁと彼らは思っているに違いありません。これから自然界と人間界の境界のようなこの土地で、彼らとうまく共存しつつ、自然環境から受けるさまざまな気付きをこれからの建築設計に生かしていけたらと思います。

09_アーキテクトcs6.indd 3　15/08/20 17:06

フランスと日本の関係 ～対外文化政策のいま～ ＜第2回＞

「アンスティチュ・フランセ東京—現代芸術を伝える場—」

松本茂章 | 公立大学法人 静岡文化芸術大学文化政策学部教授

日本のなかのフランス風景

「ここはパリの街角なのか」と錯覚する光景が東京・神楽坂にある。仏国の公式文化機関であるアンスティチュ・フランセ東京（新宿区市谷船河原町）である。筆者が訪れた2015年7月初旬、女性ファッション雑誌の撮影隊がやって来て、カメラのシャッターを盛んに切っていた。敷地内には「RIVE GAUCHE」（左岸）という仏語の黄色看板を掲げた書店やエッフェル塔が壁面に描かれた飲食店が営業しており、「絵」になる。地上階に入ると、赤い壁と床のカフェが設けられ、コーヒー205円。ロビーのいすは鮮やかな青や黄色である。園庭には仏式の街灯やベンチが並び、深い緑色に塗られている。実にカラフルな風景だ。

かつての名称は東京日仏学院だった。同館によると、東京、横浜、九州（福岡）には日仏学院が設置され、京都に関西日仏学館が設けられていた。一方、日本大使館文化部と各日仏学院（学館）は別の組織で独自の活動をしていた。そこで仏政府は2012年9月、仏語や仏文化の普及を強めるためアンスティチュ・フランセ日本（INSTITUT FRANÇAIS DU JAPON）に一本化し、出先機関の名称を統一した[1]。英ならブリティッシュ・カウンシル、独ならゲーテ・インスティチュート。他国にも同様の対外文化機関がある。仏の場合、現地の言語による独自表記を認めていたので、日本では「学院」「学館」などと名称はさまざまだった。今後、新しい名称に親しまれるまで、しばらく時間がかかるかもしれない。

フランコフォンを育てる学校

旧東京日仏学院は、日仏会館（恵比寿）が東京都に語学学校設立の申請を行い、1951年に開館した。第1の使命は仏語普及であり、語学学校の授業料が総収入の60％を占めている。17の教室を使って延べ2,000人の登録者が初級から上級まで多様なクラスで学ぶ。登校してくる受講生の姿を拝見した限り、熟年の女性層が多く、高齢化が懸念されているようだった。とはいえ、仏語を話す人々（フランコフォン）の数は、世界的にみると増えている。仏語圏のアフリカ大陸で人口が急増しているからだ。仏語を母語とする人々は世界で約1億2,000万人余り、第一外国語なのは2億人以上。世界約50カ国で話されているという。

坂倉準三が設計したアンスティチュ・フランセ東京（旧東京日仏学院）の外観（筆者撮影）

白亜の3階建てである旧東京日仏学院の建物は著名な坂倉準三（1901－1969）が設計した。二重らせん階段の塔屋がよく知られている。表側の階段を上ると3階へ。裏側の階段を使うと2下.5階の館長室に至る。部屋の主は15代館長ジャン・ジャック・ガルニエ。丸メガネに髭姿。仏名優ジャン・レノをスリムにした印象で、とてもおしゃれな男性だった。

現職大統領の訪問

快晴の2013年6月8日（土曜）。この歴史的な建物や園庭に、開館以来、初めて現役の仏大統領、フランソワ・オランドが訪れた。国賓としての来日の一環で、仏語を学ぶ中高生、大学生らを招待して若者らと話し合った。「（フランスへ）勉強しに来てください。歓迎します」と演説した。今も感激の面持ちで館長は振り返る。「現職の大統領にお越しいただき、実に名誉でした。大統領は気さくな方で、日本の若者たちを招待したのは大統領のたっての希望。教室に出向いて授業中の生徒とも交流された」。大統領に面会した館長は、築60年を経た既存建物を改修し、園庭に新たな建物を1つ建てたい、との希望を陳情した。建物が傷んできたことや手狭なことからの願いだった。「大統領は『政府として支援する』とおっしゃってくださった」と言う。

09_アーキテクトcs6.indd 4 15/08/20 17:06

青、白、赤の3色の提灯で飾られたパリ祭。毎年革命記念日に近い土曜日に開かれている
（写真は2014年7月12日の様子。アンスティチュ・フランセ東京提供）

語学教室の白い壁に描かれたアート作品は色鮮やか（筆者撮影）

2020年の東京五輪・パラリンピックに合わせた開館を目指している。「仏政府の支援だけでは資金不足なので日本でのパートナーあるいはスポンサーを探していく。日仏の未来を象徴し、モダンで環境に配慮したデザインにするため、若い建築家を登用したい」と、館長は筆者に対して将来の目標を意欲的に語った。

新しい芸術を発信する場

語学普及に次ぐ同館の重要な使命は「未来のために仏の現代芸術を優先的に発信すること」である。日仏文化交流では、すでに多くの印象派に関する絵画展やクラシックの音楽会などが行われているので、公的機関として現代的な芸術を積極的に支援したいとの考え方が背景にある。使命を担う1人が文化プログラム主任のサンソン・シルヴァンである。やさしい目をした髭面のパリジャン。1978年、パリ19区に生まれ、パリ第10大学で哲学を学んで卒業した。一方でクロサワやミゾグチなどの日本映画作品に感銘を受け、パリ第7大学の日本語・日本文化学科に再入学。神戸大学にも1年間留学した。パリ第7大学では日本の思想家に関する修士論文を書いて大学院を修了した。パリで日本の漫画や小説の翻訳をしたり、編集者向けの大学院に通ったりしているうちに、在日大使館で書籍担当者を公募していることを知り、応募。採用が決まり2007年6月に来日した。2011年からは旧東京日仏学院にポストを得て、主にビジュアル・アーツやメディア・アーツの振興を担当する。自らの新企画「デジタル・ショック」は2012年から続けるメディア・アーツの芸術祭。毎年2～3月、館内や園庭など可能な限り使って、作品を展示したり映像を上映したり……。2015年4月からは、日仏の芸術家が館内で対談する新たなシリーズ「ル・ラボ」を立ち上げた。

シルヴァンがかかわったプロジェクトの1つに「教室のアート」がある。2009～2011の3年間、教室の16の白壁を活用して、仏人芸術家16人にイラストを描いてもらった。少女の姿や猫の絵など「今」の表現が色彩鮮やかに展開される。「授業のない時間帯には自由にご覧いただけるので、フランス芸術の『今』を見てほしい。ここは語学学校だけではなく仏の現代アートに触れられるところだから」。シルヴァンは笑顔で語りかけた。

館内にはこのほかメディアテーク（図書館）やエスパス・イマージュ（映画館）なども設けられている。エスパス・イマージュについては静岡県舞台芸術センター（SPAC）が近年、東京での記者会見場に活用している。SPACは演劇祭に仏人芸術家をよく招く関係で、同館との連携を強めており、2014年3月の記者会見ではインドの古典劇『マハーバーラタ～ナラ王の冒険～』などを持って著名なアヴィニョン演劇祭に参加することを報道陣に説明した。SPAC芸術総監督の宮城聰（1959年生まれ）は「客席の形が横長であるためどこに座っても壇上の話者からの距離が近く、記者会見に親密な雰囲気が生まれる。また客席に十分な傾斜があり、舞台からも客席の方々が1人ひとりよく見える。フラットな会議室よりもどなたが来てくださっているか認識しやすい」と話した。

同館を窓口にして日仏の多彩な文化交流が一層進展することを期待したい。

（敬称略）

1）アンスティチュ・フランセ日本の本部は大使館に置かれ、そのもとに東京、横浜、関西2か所、ヴィラ九条山、九州の計6か所に出先機関がある。このうちアンスティチュ・フランセ関西は、京都（旧関西日仏学館）と大阪（旧大阪日仏センター）の2つに分かれる。ヴィラ九条山は京都市山科区に設けられた施設で、仏人芸術家が滞在しながら作品を制作できる文化施設である。

このほか、アンスティチュとは別に、アリアンス・フランセーズがある。仏政府公認機関の語学学校で、札幌、仙台、名古屋、徳島に置かれている。

まつもと・しげあき
早稲田大学教育学部卒、同志社大学大学院総合政策科学研究科博士課程（後期課程）修了。博士（政策科学）。読売新聞記者、支局長を経て2006年4月から県立高知女子大学教授（現、高知県立大学）。2011年4月から現職。日本文化政策学会理事、日本アートマネジメント学会関西部会長、NPO法人世界劇場会議名古屋理事。単著に『芸術創造拠点と自治体文化政策　京都芸術センターの試み』（2006）、『官民協働の文化政策　人材・資金・場』（2011）、『日本の文化施設を歩く　官民協働のまちづくり』（2015）（いずれも水曜社）。

09_アーキテクトcs6.indd　5　15/08/20　17:06

〈隔月6回連載〉

新連載　だれもが知ってる建築史のはなし

測る

溝口正人｜名古屋市立大学大学院芸術工学研究科教授

私の専門は漢文の日記を読んでの古代中世貴族住宅の復元。寝殿造の研究者で一貫しているはずですが、地域に根ざした活動が地方大学の責務となっていて本業は開店休業。普段は東海三県の文化財や町並みの保存に関係する仕事が中心で、歴史的な建物を活かしたまちづくりにかかわることで日々を重ねています。行政の方々や設計士のみなさんとの接点が増えた普段の仕事で考えたことを今回から披露させていただくわけですが、ときの流れにあらがうのが歴史屋の存在意義ですから、多少は当たり障りある連載になればと思います。

建築史に何が可能か

モノとしての建物にこめられた文化、技術の総体がArchitectureとのことです。手元の辞書で引けばU、つまり不可算名詞と記され、訳語の筆頭は建築術です。明治時代、この抽象的な概念の訳語について議論の対象となったことはご存じと思います。「造家学」ではしっくりきません。「建築(術・学)」で落ち着きましたが、「建築」は誤解を受けかねない用語、建築を対象とする歴史学としての建築史学も、建物の歴史(モノ)を扱う学問なのか、建築により歴史(コト)を語る学問なのかの判断が難しい学問となりました。

今日、設計実務との間には三途の川が流れていそうな建築史という分野ですが、和洋を問わず建物が古典主義を装っていた時代には建築意匠の根幹を担う実学であり、建物の設計に不可欠の学問であったといえます。

近代建築が様式と決別をして以後、建築史の置かれた状況は大きく変わりましたが、近代主義が様式を駆逐した後も、ある種のデザインリテラシーを担う一分野ではあり続けたのでしょう。装飾を捨象した先のプロポーションを見据えたかのような“Less is more” “God is in the detail”というミースの言説の前提には、古典主義の影が透けて見えるようにも思われますし、ロースのように装飾を犯罪と同等とする考えも、忌まわしいほどあり余る古典主義の遺産があって生まれたといえます。近代においても、認めるか忌避するかはさておき、デザイン感覚の涵養の上で、建築史的な素養は前提の一部ではあったと考えられます。

学生の設計作品に「プロポーションがいい」と発言する自身の建築観には、冷ややかであるべきと考えています。私の大学時代の教官は、岸田日出刀の『過去の構成』などに感化されて桂離宮を美しいとするモダニズムの感性を持ち合わせていた世代で、その物差しを教え込まれた側も同じ感性を深層で植え付けられているわけです。同様な感性の作付けがなされている人は本誌の読者にも多いことでしょう。

しかし床・壁・天井といった空間を限定する装置の解体が進む建築の現状からみて、様式建築から何が学べるのかへの今日的な解答は、なかなか見いだしにくい。コトの奥義は守・破・離にあるとはいうものの、古典主義から離れてしまえば守るべきものは何であったかは忘却の彼方で、若い建築学徒であればなおさらです。これと呼応するかのように、実学から離脱した建築史学は純粋な歴史学として設計の水面下へ深く潜航することとなりました。実学としての存在価値を失った以上、避けざるを得ない選択だったともいえますが、今となっては存在さえも疑問視される分野といえるのかもしれません。

学問が霞を食って太平の世を謳歌することが許されない今日、建築教育機関での建築史の存在意義としては、過去から建築の未来への方向性を見いだすためにあると位置づけることにしています。建築の振る舞いを考える上で、過去から未来が見通せるかは議論があるでしょうが、一見役に立たないような事象にも考えるヒントはあるように思います。私の場合、設計から歴史へと生業を変更したなかで、さまざまな建築史の「はかる」現場から考えさせられたことがありました。

「はかる」…日頃、なにげなくパソコンで打ち込む言葉ですが、測る・量る・計る・図る・諮る・謀る、その意味するところはなかなか奥が深い。この連載も「はかる」ことの諸相から、話題を提供することとします。

「測る」ということ

1996年に今の職場に着任して以来、学生と建物の実測を

09_アーキテクトcs6.indd 6　15/08/20 17:06

している。私個人の研究上の興味からではなく、自治体の求めに応じた「公的な」調査です。従来からの協力者がみんな偉くなって、現場に呼び出しにくくなったことが学生を駆り出す個人的かつ最大の理由でした。建築史研究室は数あれども、いまや実測を「こなしている」研究室は全国的に絶滅寸前。自身が県下で最も実測している現状に危機感も感じますが、愚痴をいえばきりがありません。

教育現場は人育ての一次産業、農業と同じで毎年の繰り返しであり、まとまった調査は暑い夏休みで実施することになります。汗と埃で身体も実測の野帳もドロドロ。壊れそうな（実際にほとんど壊れている場合もある）建物の調査も多く、まさに典型的な3Kの現場ですが、現物を前にして建築をリアルに体感できる場でもあります。リアリティー無くして設計はあり得ませんから、リアルな現場には学ぶべきものは多い。ゼネコンに就職するまでは1棟も実測したことがなかった私も宗旨替えをしました。

ゼミ配属の3年生に「木造住宅の柱の一般的な太さは？」と問いかけると、45㎝とか30㎝とかいった答えが返ってくることがあります。前任の大学でも同様でしたから特に驚きません。なんて非常識な、と誹る方が非常識なのです。RCとスチールしか学んでいないのだし、なにより構造形式はどうであれ、ほとんどの学生が柱の見えない家に住んだことしかないわけですから。

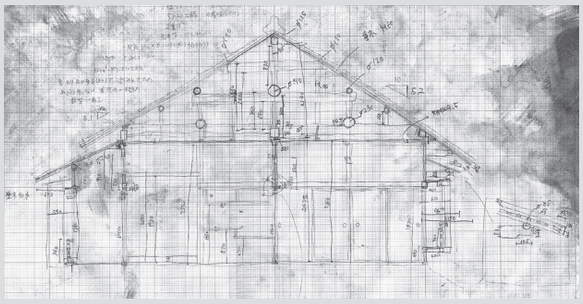
実測現場で何畳間といわれても、畳がある家に住んだことがないのでピンときません。一番注意するのは2階の床を歩くとき。大引や根太を想定して歩こうと指導します。学生は足元がたわむヤバい感覚に疎いのですが、木登りしたことがないからしかたない。少なくとも日本では平時にRC造の建物は崩れません。ましてや敷居を踏むのは親父の頭を踏みつけることと叱られたこともない。敷居は外れやすく痛みやすいのだからと行儀作法の指導となります。

社会人をやめて学生に舞い戻った頃、建築史のレジェンドである浅野清先生の古建築見学会に参加したことがあります。今から考えれば贅沢な時間です。いたずらに写真ばかり撮る私たちに、浅野先生は「写真を撮ると、分かった気になりモノをみることが疎かになる」と、たしなめられました。確かに、モノをみて理解することが目的なのであり、写真を撮ることに懸命でモノをみないのは本末転倒です。

実測は図面化を前提とした作業です。建物というモノを見つめて野帳という図に起こす必要があります。図化とは、あいまいな記憶を記録として定着させる作業です。自分が図化した現前の建物を図面に定着するため、ひとつひとつの寸法が気になり出します。特に文化財建造物において図面はモノの肖像画ですから、絵が持つ意味は大きく、寸法の持つ意味は疎かにできません。設計では寸法が分からなければ究極では分一で形を決めることになるのですから、「測る」という行為、そして結果としての寸法の持つ意味を知る意義は大きい。

作図方法は、手書きからパソコンへと時代に合わせて変化し、個性を見分けることが難しくなりました。デジタル化された社会の一側面です。しかし野帳にせよ、ドローイングにせよ、やはり選んだ線の太さや装飾の描き込み、省略に描き手の意欲や感性を垣間見ることができます。そして描き手は図化によって、普段は気づかないモノのあり様を発見し、再認識することになります。

左｜洋風建築の実測では、装飾要素の大きさを目に近いところで実感することになります
右｜伝統木造の場合、小屋組みは千差万別。何故そのように組んでいるのか、現代的な合理性だけでは読み解けません



真夏の昼の現実。サウナのような小屋裏でモノに向き合った証しとしての野帳です

みぞぐち・まさと｜1960年三重県生まれ。名古屋大学卒、同大学院修了。清水建設設計本部、名古屋大学助手を経て現職。専門は日本住宅史、漢族・少数民族住居誌。文科省文化財保護審議会第二専門調査会委員、愛知県文化財保護審議委員、重要伝統的建造物群保存地区保存審議委員（妻籠,奈良井,足助など）。町並調査（美濃,醒井,犬山,足助,有松,揖斐川など）、近代化遺産調査（秋田,鳥取,愛知）、名古屋城本丸御殿・湖西市新居関の復元などに従事。写真はヤオ族の子どもとともに。

09_アーキテクトcs6.indd 7 15/08/20 17:06

「世界遺産・富岡製糸場と上州の名建築をめぐる」建築ウォッチングの旅

去年に続いて今年も、JIA・建築ウォッチングのツアーに参加することにした。今年は伊豆韮山の反射炉を含め「明治日本の産業革命遺産」が世界遺産登録を受け、にぎわい始めているのを見聞きし、それでは先輩格の富岡製糸場もどのようなものか一度見てみたい気持ちに駆られてのことである。

富岡製糸場と桐生のまち並みを見学し、硫黄泉のにごり湯で有名な草津温泉に一泊して、まさしく「草津よいとこ一度はおいでドッコイショ…」といった感じで温泉を堪能し、翌日は吉村さんの天一美術館、ヨコミゾマコトさんの富弘美術館、A・レーモンドさんの群馬音楽センターと旧井上邸を見学するという盛りだくさんな企画に魅力を感じたからである。

●富岡製糸場

皆さんご存知のように富岡製糸場は明治5（1832）年、明治政府が日本の近代化のために最初に設置した模範器械製糸場である。建造物群が現存する施設の操糸場は長さ140.4メートル、幅12.3メートル、高さ12.1メートルで、当時、世界的にみても最大規模であった。

また、韮山の反射炉は現存する唯一の幕末期の大砲を鋳造するための炉で、それゆえに複合遺産として登録されたとのこと。殖産興業、富国強兵、国策に沿った遺構であることはわかるが、それがどうしたんだという声が聞こえてくるようだ。

確かに古いものが大切に保存され、時代の息吹に触れられる貴重な遺産を見聞できるのだが、文化遺産や、風景・自然遺産のように感動をともなう環境が保存されているわけでもなく、建物自体も特別な工夫が凝らされているわけでもない。

せめて建物の一画、機械が実際に稼動していてライブで操業を体感できるのであれば、それはそれとして生活感があって素晴らしいのではないだろうか。保存の仕方、ありようがもっと工夫されていいのではと思った。

2014年６月に世界遺産登録

●桐生新町伝統的建築保存地区

桐生の篤志家の方が自宅の蔵を改装し、織物の展示空間を開設していた。金糸銀糸で織り込まれた輸出用のドレス生地は絢爛豪華、素晴らしく、日本人の技術力・美意識にしばしうっとりとしてしまいました。このような、民間人の保存に対する熱意に敬服です。

桐生　豪華なドレス生地

●天一美術館

吉村順三さん設計の天麩羅の老舗「銀座 天一」のコレクションを収蔵展示している。「天麩羅屋は儲かるんだなー」なんて下世話な思いで見学するも、「料理こそ総合芸術であり人間の五感に感応して大きな喜びを与えるのである」という創業者の際立った感性と人柄が武者小路実篤、志賀直哉など多くの文化人に親しまれ、時のサロンとしての役割を果たした。バーナード・リーチ氏の来日時には必ず天一で宴が開かれ、芸術界最高峰の方々の尽きない語らいがあったという。むべなるかな、息子さんの代に吉村さんという人を得て、谷川岳の麓の温泉郷に瀟洒な展示空間ができた。これが吉村さんの最後の作品であるそうだ。

駐車場際・通路の可憐な山野草の小庭を経て、エントランスに続く階段アプローチもさりげなく、昇り道も苦にならない。外観・内部とも、奇をてらうこともなく粛々として、周囲自然との一体感も素直で嫌味がない。インテリアはシンプルでかつ空間のプロポーションが良く凛として美しい。置かれた家具も人に優しいのがいい。

天一美術館　設計者：吉村順三
周囲の自然と一体化したアプローチ（下）

09_アーキテクトcs6.indd 8　15/08/20 17:06

●富弘美術館

詩人・画家である星野富弘さんの作品を展示する富弘美術館。国際コンペで伊東豊雄さんのところにいたヨコミゾマコトさんが1等になったもので、シャボン玉から発想を得て、平面的な丸い自立壁が屋根を支え空間を成し、それらの部屋が連なる斬新なデザインであるが、はたして伊東さんを超えただろうか…。アイデアを昇華させ、芸術作品として展示物ともども生き残ることのできる、したたかなデザインという点からは甘いように思うのだが、いかがなものか。

富弘さんは絵達者、ことばの魔術師。正統派の仕事は俗で固まった私には眩し過ぎる。

●群馬音楽センター

A・レーモンドの設計。一時代を築いた骨太な建築家の力量が、分かりやすい空間として提示されていて、内部階段の意匠にみる職人気質な世界は、古くて新しい。なぜか懐かしくも微笑ましく、ほっとさせられる。

40数年前、設計の仕事を始めたとき、先代の石井信吉より「構造が即ち意匠として表れ、美しい」そんな素直な建築を目指しなさい。と言われたことを思い出していた。かつてシドニーのオペラハウスを見学したとき、インテリアは外観に関係ないフラットな天井が張られていて、がっかりしたことを思い出した。その点、この建物は外部に表れる構造がインテリアにも表出されていて美しい。

群馬音楽センター　設計者：A・レーモンド

特徴的な階段

●旧井上邸

A・レーモンドの設計。かつて、日本の総理大臣をした一級建築士の田中角栄さんが勤めていたという、地方の大手建設会社のオーナーであり、篤志家の自邸である。こういう地方の名士が、伝統と建築文化の継承に果たした役割を思わざるを得ない。

去年も軽井沢でいくつかの作品を見学したが、この家、木造丸太造りの軽井沢の教会をほうふつさせるものがある。思うに、多分レーモンドは来日して、木造大工の力量と日本人の感性に惚れ込んでしまった……のではないだろうか。

手仕事と和空間からの逃れられない想いが、国籍を越え軽妙洒脱な木のあしらいに遊び、和魂洋才の世界を追い求めていったのだろう。

庇を介し天空につづく軒先空間に神が宿り、内と外のつながりの中、天地・自然と一体になることを模索し、そこに和の真髄を感じたのであろうか。生きていれば聞いてみたいものだ。

❖

和食が世界文化遺産となり、世界の目が日本に向いている今、次なる文化遺産を思うと、「数奇屋建築」と思っている。いかがでしょうか。

旧井上邸　設計：A・レーモンド

室内の様子

増澤信一郎｜石井建築事務所

09_アーキテクトcs6.indd　9　15/08/20　17:06

「ふすま」で「さんぽ」してきました!

◆「百聞は一見に如かず」

6月28日の日曜日に『連続環境セミナー・スタートアップセミナー 2―素材を訪ねるさんぽ―「ふすま」』が名古屋市・橘にある柏彌紙店で行われました。15名の参加者で、アットホームに進めていただきました。1階の店舗にてTVで放映された映像や、ふすまのサンプル、引手などを見せていただきながらお話を聞きました。その後2階に上がり、実際のお部屋でふすま・障子を見せていただきました。

「百聞は一見に如かず」と言いますが、行ってみないと本物の良さは分かりません。ぜひ、柏彌の尾関さんをお訪ねください。

◆今後のセミナー

このスタートアップセミナーは来年春からの本格的な連続環境セミナーを開催するにあたって、雰囲気や、意気込を感じていただけるような意図で始めました。温熱環境などの技術的な部分だけでなく幅広く「環境」について考えていきます。

1回目は医学の立場から「住まいと健康」と題して愛知医科大学の梅村朋弘氏さんにお話ししていただきました。人間から「環境」を考えました。また、次回の第3回は8月27日に「ウチのサイフと地球の財布」と題してNPO法人気候ネットワーク研究員の伊与田昌慶氏をお招きして「二酸化炭素による地球温暖化」「エネルギー問題の中での住宅の位置付け」など地球レベルから環境問題に取り組む可能性、重要性を学びます。第4回は子どもの視点から鈴木賢一氏に語っていただく予定です。

3,11から私の意識は変化し始めました。現在の置かれている状況を、エネルギーなどの大局を見据えて、一軒一軒の家づくりから変えていくことが可能だと信じています。連続環境セミナーは聞くだけではない参加型・実践型のセミナーになる予定です。皆様の積極的な参加をお待ちしています。

「まち歩き」で案内してくれた名古屋造形大学の学生たち

◆まち歩き

お昼からは名古屋造形大学の学生さんによる「まち歩き」で東別院から西別院まで橘・本町通界隈を案内していただきました。1年生のフレッシュマンが案内してくれました。楽しかったです。

国立競技場の建設問題がニュースなどで騒がれ、建築家が注目を集めています。これからの建築家は「環境についての知識・知恵」と合わせて「街づくりに対する知識・知恵」も必要になるのではないか思います。今回はその両方を学ぶいい機会でした。尾関さん、学生さんありがとうございました。

左｜お店は「城下町名古屋」のメインストリート「本町通り」に面して立つ、明治 30 年普請の木造建築です
中｜「からかみ」について話していただいている柏彌７代目尾関和成さんです。隣には８代目良祐氏がいます。継承されていく素晴らしさを感じました
右｜二階にある天窓です。「光ダクト」とでも言いましょうか

左｜柏の「キラ（雲母）押し」です。あらためて見るとモダンな柄です。白いふすまは袋貼りによってふっくらとした表情を見せていて、人の動き、光の移ろいによって「キラ」がきらきら光って見えます。（西尾市の吉良町はこのキラの産地から付いた地名です。）
右｜手漉きの美濃紙を透けて柔らかな光が入ってきます。尾張徳川時代の美濃和紙の原料は岐阜ではなく那須から持ってきたそうです。意外な事実を教えていただきました。手摺りの透かしが綺麗です。スイスのカーテンメーカーである「バウマン社」の製品でも同様の美しさを感じました

□推薦文献
ARCHITECT 2004 年 8 月号より連載「和紙の楽しみ①～⑥」尾関和成
ARCHITECT 2012 年 5 月号より連載「真宗大谷派 長嶋山 崇覚寺 本金障壁画「蓮華図」修復工事①～③」尾関和成
ふすま―文化のランドスケープ / 向井一太郎・向井周太郎（中公文庫）

吉元　学｜ワーク◎キューブ

09_アーキテクトcs6.indd 10　15/08/20 17:06

「タカラスタンダード㈱名古屋工場」見学会

（公社）JIA愛知地域会住宅研究会と（公社）愛知建築士会名古屋北支部の合同企画で、タカラスタンダード㈱名古屋工場見学会が、6月24日（水）に開催され、30名弱の参加がありました。13時に名古屋市北区にあるショールームに集合し、担当者から展示品の説明を受けました（写真1）。キッチンセット以外に、人造大理石の天板、シンクも自社製との説明や、ホーロー製のキッチン扉のカラーバリエーションの豊富さには驚かされました。ユニットバスの切断モデルはホーロー浴槽の保温性能が改良され、浴槽周囲に発砲ウレタン断熱材が充填されていました。

鋼板表面がガラス状の特性は、ガリガリこすってもキズが付かず、また汚れをふき取るには抜群の性能と、担当者が実演してくれました。

そのあと、東北側にある工場（写真2）に移動し、会議室で見学に先立ち担当者から、会社の沿革を聞きました（以下は、パンフレットから抽出）。

M45年、創業
S22年、日本エナメル㈱（現在のタカラスタンダード）名古屋工場として設立。
S30年、矢田琺瑯（ほうろう）製作所に分離独立
S40年、ホーロー流し台の製品化に成功
S46年、タカラホーロー㈱に社名変更
S60年、システムキッチンの受注生産開始
H16年、洗面化粧台生産開始
H17年、タカラスタンダード㈱に吸収合併、名古屋工場として再出発、現在に至る。資本金263億、従業員5,753名（H26年3月）本社大阪、全国16カ所に工場を持つ。

ホーロー製品製作現場を　各々携帯無線器を借用して2グループに分かれ、説明を聞きながらラインに沿って見学しました。残念ながら写真撮影は禁止です。

まず、前処理工程の、板金工程(鋼板を所定の寸法と形状に成型)では、脱脂（鋼板に付着している油分を除去）→酸洗い（ホーローの付着をよくするため表面を微細な凹凸状に）→ニッケル処理（さらに密着性向上のためニッケルを付着）→中和（次の施釉工程までにさびるのを防ぐため、鋼板表面の酸を中和させる）の工程を見学しました。

前処理工程の一方では、原料（珪石、長石、ほう砂、ソーダ灰など）を混合して、1,200～1,300℃で溶融・冷却し、ガラス状にしたフリットに、粘土、水、薬品などを加え吹付のできる、泥しょう状のスリップと呼ぶ液状にします。それを施釉工程で、吹き付けます。吹付の現場では、所定の寸法と形状に成型された鋼板が、釣り下げられた状態で回って来て、100ミクロン（0.01mm）を正確に吹き付けます。洗面ボールのような形状のものには、熟練工がスプレーガンを持つ手首をくねらせるように回転させ、一気に吹き上げていました。2回吹き付けしてピンホールを防ぎます。

焼成工程では、内部温度850℃で燃え盛る焼成釜の内部を小窓からのぞかせていただきました。名古屋工場に2基、福岡工場に1基あるそうです。 組み立て工程では、ライン上で、電動ビスを使う人が思ったより多く、手づくり感を感じました。検査、梱包工程と見てまわり、最初の会議室に戻り、工場長の説明を受けました（写真3）。

原料の珪石や長石の黒と白の破片を見せ、それらを高温で溶融させてできたフリット液を指に付けて、硬化することを示し、指を擦りあわせて落として見せ、ホーロー鋼板を折り曲げてひび割れしないこと、デザイン転写も実演していただきました。ちなみに1番厚くホーローをコーテイングしているのが、コンロのトッププレートで1.6mm、キッチンパネルは0.5mmとのこと。名古屋工場の生産能力は、キャビネット600～650台/日、ホーローが薄くなり、生産性が向上したそうです。ホーローの起源は紀元前エジプトで、ツタンカーメンのマスクが、現存する最古のホーロー装飾品で、シルクロードを経て飛鳥時代に日本に伝えられています。ホーローの魅力を再認識した見学会でした。

田中英彦｜
連空間都市設計事務所

写真１　展示品説明の様子

写真２　東北側にある工場

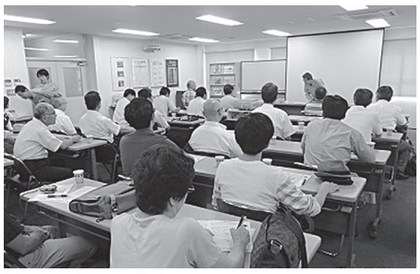


写真３　会議室で工場長からの説明を受ける

09_アーキテクトcs6.indd 11　15/08/20 17:06

会員研修会報告

6月19日、三重地域会では、日本ＥＲＩ㈱からの講師を招いて、平成18年以来8年ぶりとなる「建築基準法」の大改正についての講習会を開催した。改正法などの施行は6月1日からなので、遅きに失した感が無いでもないが、業務を行うためには、当然頭に入れておく必要がある改正も多く、大筋としては次の内容である。

(1) 構造計算適合性判定制度の見直し
(2) 構造耐力に関する規定の見直し
　(法第20条第2項)
(3) 仮使用認定制度の民間活用
(4) 容積率制限の合理化(老人ホーム等)
(5) 木造建築関連基準の見直し
(6) 新技術の円滑な導入(法38条)
(7) 事故等に対する調査体制強化
(8) 移転に関する規定の整備
(9) 確認申請書等の様式変更

今回の改正の目玉は、なんと言っても(1) 構造計算適合性判定制度の見直し、である。改正前は、建築主が提出するのは確認申請だけであり、構造適判機関への判定依頼は、建築主事又は指定確認審査機関が行っていた。改正後は、建築主から、確認申請の提出と共に、直接構造適判機関への判定依頼(判定申請)が可能となった。要するに、確認申請の構造審査と構造適判機関の判定業務の平行審査が行われるようになり、審査期間が短縮され合理化される、というものである。

日本 ERI 株式会社 三重支店　植野 昌 氏

会場の様子

しかし、今まで散々構造適判で痛い目に遭ってきたわれわれにとっては、にわかに信じがたいことではないだろうか？　案の定、質問時間ではその点に集中した。果たして、平行審査で、建築主事や指定確認審査機関の構造審査と、構造適判機関の審査結果が同じ結果となるだろうか？　相反する指示がでた場合の処理はどうするのか？ ということである。指定確認機関のＥＲＩとしては、構造適判機関の判定結果をみた上で、自身の構造審査結果を調整するということだったが、その調整に時間を要するようでは、全く意味のないことではないだろうか？　むしろ、個人的には、構造についての審査は構造適判機関に任せてしまう、というのも一案だと思うが如何なものだろう。ただし、三重県の場合は、構造適判機関は某センターの独占業務となっているので、それはそれで色々と問題があるとは思うのだが……。兎に角、構造的な審査が二重になっていることの見直しと、三重県の場合は、構造適判機関の一社独占の見直しが急務ではないかと考える。

(2) 構造耐力に関する規定の見直し、(3) 仮使用認定制度の民間活用、(4) 容積率制限の合理化、(5) 木造建築関連基準の見直し、(8) 移転に関する規定の整備、などについては、現実に即した緩和であり、また、民間審査機関の活用の幅を広げる改正であって、一定の合理化、円滑化につながるものだと思う。

(6) 新技術の円滑な導入、は私たち弱小事務所の者には、全くと言っていいほど無関係なものであり、大手ゼネコン、大手住宅供給業者への便宜かなと、穿った考え方をしてしまう。

(7) も仕方ないかな、というくらいの認識ではあるが、本来は「建築士」という国家資格をもって行う業務について、信用されていない、と感じるのは私だけでは無いと思う。

最後に、私個人としては実務から遠ざかっているので、日々の業務について事務所の所員に話を聞くたびに、随分と煩雑なことが多いんだな、と感じる毎日ですが、構造計算偽装事件以来なくした「建築士」の信用は、そう簡単には取り戻せない、ということか……。

松本正博｜上野建築研究所

09_アーキテクトcs6.indd 12　15/08/20 17:06

防災はまちづくりの入口

熊野くらし工房一級建築士事務所　森岡茂夫

2年前、横浜から故郷の和歌山県にUターンしました。本部ではJIA災害対策委員として、地域会ではJIA神奈川の代表として活動しました。故郷の和歌山県にUターンした今、JIA本部と地域会で培った経験を活かそうと活動を行っています。

■ JIA災害対策委員会が本部常置委員会として発足

本部にJIA災害対策委員会が設置されたのは、2011年に発生した新潟県中越地震がきっかけです。それまでは大地震が起きる度に、特別委員会を組織して対応していました。しかし、新潟県中越地震では行政が行った被害認定調査でさまざまな問題が発生したため、行政から建築関係団体に支援要請があり、これを機に本部に常置委員会としてJIA災害対策委員会が設置されました。

■ JIA災害対策委員会の活動

災害対策委員会の役割は、①震度6弱以上の地震が起きたとき、ただちに対策本部を設置する。②地震発生から3日以内に被災地に委員を派遣し、被災地の支部・地域会と対応を協議する―ことを実践してきました。その結果、2004年、新潟県中越地震。2005年、福岡県西方沖地震。2007年、能登半島地震。2007年、新潟県中越沖地震。2008年、岩手・宮城内陸地震。2009年、駿河湾沖地震。2011年、東日本大震災。2011年、紀伊半島大水害。2013年、淡路島地震。―と、毎年のように災害対策本部を設置して活動を行ってきました。

逃げ地図制作の様子

■本部・支部・地域会の役割

2015年、JIA災害対策委員会は解散してJIA災害対策会議が再編成され、メンバーも一新されたようです。10年以上にわたって本部の委員として活動を終えた今、私は本部・支部・地域会の役割をこう考えています。

- 本部は大災害発生後の支援活動を準備し実践する。
  災害はいつ、どこで起きるか分りません。したがって、都道府県を横断して活動できる組織が必要です。建築関係団体の多くは横断できる組織が少ないため、JIA本部のこれまでの活動は行政や他の士業団体から高い評価を受けています。
- 地域会は平時に事前復興計画を地域に提案し活動する。
  地域によっては数十年、数百年に一度起きるかも分からない大災害に対して、地域会が災害後の支援活動の準備を行うのは現実的ではありません。地域会は平時に行える活動を担うべきです。
- 支部は本部と地域会の連携を円滑に進めるための活動を行う。

災害の形態は地域によってさまざまです。同じ県内でも海辺の町と山あいでは予想される災害は大きく違います。したがって、地域会の平時の活動も大きく異なるはずです。したがって、支部は行う情報の収集と連携はとても重要です。

■ JIA和歌山の方針

2014年、JIA和歌山は災害対策委員会を設置し活動を始め、活動方針を定めました。

1.沿岸部の全自治体の津波からの逃げ地図を作成する。2.木造仮設住宅と配置計画を県に提案する。3.県の耐震化促進制度普及のための提案を行う。4.自治体と防災協定を締結する。

1の津波からの逃げ地図とは、東日本大震災のときに日建設計ボランティア部によって提案されました。行政が作成した津波のハザードマップを元に浸水危険性のある地区を選び、高齢者がゆっくりと歩行して安全な場所に辿り着ける時間を3分ごとに色分けし、避難時間を可視化しています。逃げ地図を活用することで、住民の避難訓練や津波避難タワー設置場所の検討、避難ルートの整備など安全なまりづくりに役立てることができます。2の木造仮設住宅と配置計画は、すでに県や自治体に図面を提供しています。3の耐震化促進制度普及のための提案は、一部屋補強や耐震ベッド、建具補強などを提案し、今年の6月に耐震ベッドが制度化されました。4の自治体と防災協定は、県下の全ての自治体と被害認定調査に協力する協定を締結しました。また、海南市、印南町、美浜町とは被害認定だけでなく、平時から防災・減災にかかわる活動を協力して進める協定を締結しています。

■防災はまちづくりの入口

JIA和歌山の会員数はわずか28名です。しかし、災害対策委員会がかかげた方針はほぼ全て実現しつつあります。それは、JIAが取組んできた災害への支援活動の成果です。都道府県を横断してこれほどまで広域に災害支援活動を行った建築士の団体はほかにはありません。その経験と実績を理解して活動に活かすことができたら、30名にも満たないJIA和歌山でも行政や住民の信頼を得ることができます。「防災はまちづくりの入口」、そのことを信じてさらに活動を進めていきます。

09_アーキテクトcs6.indd 13　15/08/20 17:06

理想と現実の狭間にみる建築

金賞受賞　杉岡　敬幸（名古屋工業大学／現在 同大学院）

■JIA 卒業設計コンクールを終えて

JIA 卒業設計コンクールは、これまでの私の活動を省みるきっかけとなり、これからの私の原点となるような経験でもあった。この場を借りて、私の卒業設計に関わって下さったすべての皆様に深く感謝を申し上げたい。拙い文章で恐縮だが、いまの私の想いをここに書き記していく。

■卒業設計の主題

私の卒業設計は、父親の生まれ故郷である愛知県北設楽郡東栄町に伝わる無形民俗芸能 “花祭り” を題材にした。花祭りは、太陽が弱まる冬期に五穀豊穣を願い、一昼夜囃子に合わせて町民総出で舞い続ける奇祭である。町内の11地区に、約800年前から口伝えだけで伝承されてきたため、地区ごとに個性を持つことも特徴だ。東栄町の雄大で厳しい自然のもとに生きる人々にとって、それは心の拠り所として大切にされてきた。しかし、人口減少や若者の意識低下により、各地区で消滅の一途をたどっている。消えかけたその文化に、私が表現できる建築の “形” によって存続への希望を持たせることはできないかと考えた。形がない文化に、形がある建築が与えうる影響の可能性を模索した。

■現風景と原風景

私の出身は、名古屋の郊外いわゆるニュータウンである。同じようなロードサイドショップが立ち並ぶ。ここでいう“建築”は、目的を繕うだけの薄っぺらなハリボテだ。手触りも奥行きもない風景が広がる。だから、ここにはない東栄町の風景への想いが強かったのかもしれない。まだ幼いころ、父親に連れられて初めて花祭りを見たとき、幻想的な空気感に狂気を感じると共に、その美しい風景に子どもながらに感動したことを今でも覚えている。花祭りの一昼夜だけは万物のエネルギーが一体になり、懐かしくも新鮮な感覚になる。そこには “人間のふるまい” が中心にあるのだ。東栄町のあらゆる風景やその手触りが、私の根底にはある。

■ふるまいの共生

減りゆく人口のなかで、一つ屋根の下で11地区が各々の個性を失うことなく共生できる一つの建築を提案した。花祭りの準備をする集会所と、地区の人々が日常的に利用できる文化施設のコンプレックス。各地区が祭りの準備を毎年移動しておこなうプログラムを考えた。それにより11地区は距離感を変容させ、個となり一体となる仕組みだ。形のある建築に、人間のふるまいが介在することにより立ち現れる流動的な空間がこの土地に最適であると考え、それを試みた。

■作品の講評

人口3,000人の町に対する規模感について指摘をいただくことが多くあった。人々の拠り所としての力強さを表すための大きさを考えたのだが、確かに地区同士の親密さはあまり見えてこないようにも思える。そうした規模感と、この建築と既存の地区の拠点をどう絡ませていくかも今後の課題であろう。

ある審査会では、「（パースを見て）私が思う花祭りはこんなものじゃない。私はこの地で生まれたから、私にはわかる。」という講評をいただいたことがある。私が描いた一枚の絵が、地元の一人に認められなければ、それはただのお絵描きでしかない。新たな試みを認めてもらうこと、価値観を共有することの難しさを痛感した出来事であった。多くの人に愛されるような、他人の日常の先に佇む建築とは何か、とても考えさせられる言葉をいただいたような気がする。

■理想と現実の狭間にみる建築

花祭りを見て思う。予測された通りの建築や文化はきっとすぐに廃れる。建築は人間のふるまいによって常に動き、変化する状態が良いと思う。形がある建築は、形のない文化=人間のふるまいが介在することで、その時々の状態に空間が呼応し、ようやくその意味が決定付けられる。変わらないことの美しさはあるが、変わり続けることによる美しさもあって良いだろう。

現在私は大学院生でありこれから社会へ出て行く身にあること、卒業設計はあくまで理想でありすべてが現実にいくわけではないこと、を意図して表題をつけた。ただ、この狭間でしかみることができない世界もあるだろう。ここで見た風景や手触りを忘れずに、限りなく理想に近い現実で、私は建築を創造していきたいと思う。

作品名「ふるまいの共生—花祭りの伝統風景を紡ぐ—」

09_アーキテクトcs6.indd 14　15/08/20 17:06

まちの風景を伝えていくために

銀賞受賞　藤田　恭輔（名城大学 / 現在　名古屋工業大学大学院）

人が心から愛着を持てるまちづくりのためにはどうしたら良いだろうかと思ったのが最初のきっかけでした。

私はまちを人の記憶や経験の蓄積と考えています。人の情緒や社会性は子どものころに形成され、その後の価値観、自己形成に大きく影響を与えます。そうして大人になった人の価値観によって構成されたまちが子どもに与える影響は、大きな割合を占めてきます。

新潟県妙高市でのヒアリング調査で得た雪の印象には良くないものが多くありました。雪というその土地の固有性が排除すべきものとして伝わり、まちに蓄積していくことに悲しい思いになりました。

しかし、調査していくと、不満はあるけれども愛着が持てているものもあるということが分かりました。そうしたことから雪がローカルアイデンティティとして愛着をもって伝わるように、人が楽しかったと思えるような瞬間を「雪」の空間に落とし込むことで、地域の良さに雪を還元できるのではないかと考えました。当たり前の風景としてそこにあることは変わりなく、親しんで過ごせる場として人の記憶に残していけるような風景を目指して設計をしました。

JIA東海学生卒業設計コンクールでは、出展した卒業設計コンクールの中で最も長く発表の機会を与えていただきました。その中で自分の設計としての考え方に評価をしていただけたことを大変嬉しく思っています。

最後に、協力していただいた妙高市の方々、ご指導してくださった先生、研究室のメンバー、お手伝いをしてくれた後輩達、このような機会を与えて下さったJIA関係者の方々、支えてくださった多くの方々のおかげでこの作品を完成させることができました。本当にありがとうございました。

作品名「余韻ある風景」

まちを見つめ直すこと

銀賞受賞　下釜　健吾（名城大学／現在　同大学院）

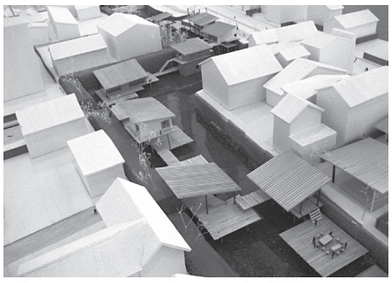
私の卒業設計のタイトルは「まちの学び舎―埋もれた外堀の再認識―」です。

まちにとって貴重な資源として保存されながらも、人知れずに放置されている外堀をテーマに取り組みました。この外堀は私の地元である三重県桑名市にあります。調査をするうちに、この外堀の近くにある小学校で、少子化による生徒数の減少が深刻な問題として明らかになりました。生徒が減り続ける小学校、統廃合が避けられない数年後の未来、でも残され続ける外堀。これらを総合的に考えたときに、未来の統合された学校の特別教室として、外堀が使われ、それらが地域に開放されていくことによって、外堀を中心にまちを豊かにできないだろうかと考えたものが「まちの学び舎」です。

この卒業設計が、今まで何気なく住んでいた自分のまちを見つめ直すきっかけになりました。そして、まちの資源がまちにどうあるべきなのかという、自分の感じた疑問について、真剣に考えることができた時間になりました。

そして、JIAのコンクールで、自分の伝えたかったことが審査員の方々に伝わり、評価をいただくことができました。コンクールまで、この作品は未完成で、辛い時期もありましたが、しっかり納得いくまでやり抜いた上での銀賞受賞でしたので、本当に嬉しかったです。今回いただいた賞を励みに今後も精進していきたいと思います。

最後に、熱心にご指導下さった生田先生、昼夜問わず一緒に作品をつくり上げてくれた木寺くん、澤井くん、河合くん、川久保くん、そして、多くの人たちの支えにより、卒業設計を無事に終えることができました。本当にありがとうございました。



作品名「まちの学び舎―埋もれた外堀の再認識―」

09_アーキテクトcs6.indd 15　15/08/20 17:06

新理事になって

鈴木利明｜新本部理事

昨春の愛知地域会長退任・バトンタッチ、昨夏以降の長年勤続の組織事務所卒業～マイペースでの個人事務所開設、との建築人生リセットの数カ月を自分史上で最も心穏やかに？過ごしていたところ、ある日突然、東海支部からの新たな本部理事に推挙いただくオファーを得た。家人や自適生活を楽しむ旧友たちは決して背中を押さなかったが、休養モードの長期化は自分でもむしろ居心地が悪くなり始めており、全国区の職能発揮の渦中に改めて微力を投じる意を固めた。

今年1月の本部役員選挙公示・2月の立候補届出・3月の選挙結果公表と手続きは粛々進み、4月17日のWEB理事懇談会から新理事候補者としてオブザーバーデビューして3理事会出席の後、6月25日の本部総会承認を経て正式に理事就任した。併せて本部公益事業委員も拝命し、現下は新国立競技場問題に耳目集中するなどにわかに慌ただしくなった。

もともと建築学生時代も東京だったし、東京本社の全国組織事務所に40年余り在籍したので、東京拠点の情報・行動ネットワークの只中にあらためて身を置き直すことにためらいは少ないものの、生来の建築活動拠点たる東海支部（・愛知地域会）との双方向の太いパイプ役を担うべきミッションの重さを既に感じ始めている。支部役員会や「ARCHITECT」誌上での恒常的受発信にまとめるだけでも決して易しくないが、「建築家」の名において、人と時と場所をより機動的に繋げることに励みたい。

東海支部から今は、鳥居前支部長・石田現支部長の両先輩理事に続く3人理事体制として新参入した形で、当支部だけ1人増のこの移行措置は、次期には定常の2人体制に戻り両人交互の更新リレーランナーとなる。いつまでも新米理事の甘えは許されないが、今暫くは焦らずに先輩たちに追いつくテストラン期間として心身を鍛え直すのが道筋でしょうか。

公益社団法人日本建築家協会　第229回理事会

日　　時：2015年7月28日（火）　13時30分～16時30分
場　　所：建築家会館1階大ホール（集合方式会議）
出席予定者　：芦原太郎会長、森暢郎・松本敏夫・上浪寛・辺見美津男　各副会長、上遠野克・
岩村和夫・連健夫・千葉学・慶野正司・藤沢進・左知子・石田壽・鳥居久保・鈴木利明・
近江美郎・江副敏史・吉田文男・所千夏・亀谷清・野村正人・角銅剛太・熊谷平一郎・
當間卓　各理事、　野生司義光、山本光良　両監事、
筒井信也専務理事、原田譲治事務局長、浅尾悦子事務局次長
オブザーバー：大澤秀雄建築家資格制度委員会委員長、高野直樹CPD評議会委員長
岡部則之JIA災害対策会議議長

全員出席の最新理事会メンバー：下線が東海支部選出理事

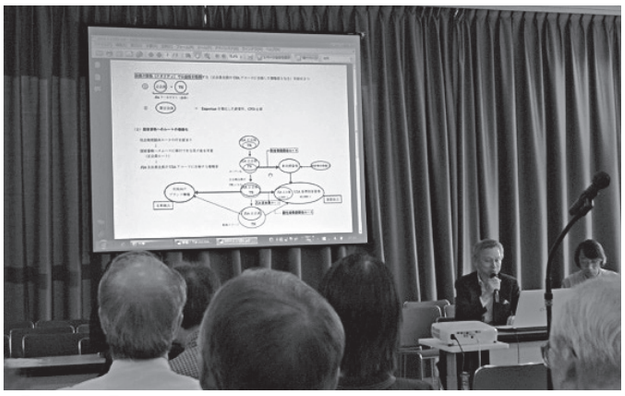
本部総会直後の「報告及び意見交換会」について

6月25日（木）14:30～16:30は建築家会館1階大ホールで恒例の2015年度「通常総会」が開催され、そのまま引続き（17:30まで）同会場で「報告及び意見交換会」が開かれた。そのテーマは「会員制度と建築家資格制度の今後」であった。

実は同日は、総会＋意見交換会に先立つ13:00から前理事体制最後の理事会、直後の17:30～18:00には新理事体制最初の臨時理事会が開かれる過密日程だった（さらに新任・初出席の公益事業委員会に10:30～12:30、仕上げの18:00からの懇親会も一通した私には丸一日がかりの東京出張となった）。総会と前後の両理事会については別途報告されるので、ここでは「報告及び意見交換会」に絞ってレポートする。

初めに芦原会長から本テーマの今後の方針に係る挨拶があり、続いて道家フェローシップ委員長から、会員は登録建築家となる今回の会員規程改正に関して、会員資格制度自体への影響や運用過程での退会者増加懸念が議論されてきた経緯が報告された。次に上浪総務委員長から、公益社団法人となった2013年から変わった「新会員制度」（準会員・フェローシップ会員）について説明が行われた。

最後に大澤職能・資格制度、建築家資格制度両委員長（と安達両委員）から、「建築家資格制度規則、細則」の実施方針案を提示の上、改正スケジュールを含めた説明が行われた。要点は、必須CPD単位数の36単位/3年への削減（但し自主研修は対象外）、ベテランの単位緩和や遠隔地などの単位取得容易化、諸手数料の見直し、「ＪＩＡ建築家」の呼称、などであった。続いて短時間ながら活発な意見交換の場となり、必須単位数減や手続き簡略化での会員クオリティ確保、自主研修が対象外となることの実践上の懸念、懸案の会員増強との功罪などが会場から提起された。



意見交換会の様子

09_アーキテクトcs6.indd 16　15/08/20 17:06

「新国立競技場建設についてJIAの提言」の経緯

本部理事・東海支部長　石田　壽

会員の皆さんも関心の深い新国立競技場建設について、7月17日付けで芦原会長のJIAの提言がプレス発表されました。これまで「JIA MAGAZINE」、理事会報告などではこのようなJIAとしての提言内容が載ったことはないので、唐突の感を抱かれた方もいらっしゃるでしょうから、ここに至った経緯を私の知る限りで簡単にコメントしたいと思います。

国際公募のデザインコンペから今日に至るまでの流れは、皆さんもご存知のことでしょうが、支部機関誌「ARCHITECT」8月号の編集後記にまとめられているのでご覧下さい。

今回の提言は、私にとっても唐突ではありましたが、日頃から新国立競技場の問題については、JIAとしても何らかの提言をする必要があると思っていましたし、興味を持って報道・識者の提言などを見ていました。個人的には色々と意見はありますが、それは今回置いておきます。

理事会でもその都度、状況報告なり意見交換は行っていました。JIAのスタンスは反対でも賛成でもなく、コンペの経緯と審査の問題、国民に対する透明性と情報公開を行うよう要請するものでした。

7月17日（金）、本部より芦原会長の「JIAの提言」を安倍首相の会見の前にプレス発表したいとのメールが入り、提言内容の文面が送られてきました。内容について問題は無いと思いますが、理事の個々の意見の中には、首相の会見の様子を見てからでも、今までのJIAのスタンスとの整合性を確認しておく必要がある、などの意見は出ていました。JIAに対し報道関係の要請が強かったのだと思いますが、17日付けでプレス発表となった次第です。

結果的には、各方面の反応は概ね好評です。もっと早く提言をした方が良かったとの意見もあるそうです。

ただ、JIAとしての外部への提言の手続き上の問題はあるかと思います。各理事へのメールでの了承はあったものの、どちらかと言えば一方的なものでした。この段階で待ったなしの状況は理解できるのですが、もっと早い段階で議論しておくべきではなかったかと。

以上、提言発表の経緯です。

2015年7月17日
報道各位

公益社団法人 日本建築家協会
会長 芦原太郎

新国立競技場設計見直しの提言

今般、新国立競技場を巡る問題が国民的議論となっています。

本年7月7日に有識者会議に報告された2,520億円という総工事費については、各種世論調査においてもあまりに高額なため見直すべきだとの意見が大半を占める結果となっており、7月15日に政府が設計見直しの方向を打ち出したことは時機を得た決断であると考えます。

コンペ当選案とそれを基にした基本設計及び実施設計は予算を大きく超過したため採用できないとして白紙に戻し、プロポーザルで決められた現設計チームを継続させることが見直しを早期に実現させるために最善なことだと考えます。その場合、ザハのコンペ案は白紙に戻すことになりますが、監修者として選ばれたザハの事務所自体は、本人の意向次第では設計チームに残す可能性もあります。

工事費削減の制約となる設計条件を見直すことで、1,625億円の予算内で十分立派なナショナルスタジアムを造ることが可能だと考えます。また現設計チームを継続させることで、2020年オリンピックパラリンピック大会は当然のこととして、2019年ラグビーワールドカップに間に合わせることも計画内容次第で可能だと考えます。

現設計チーム内にはECI方式により施工会社も含まれており、再設計に当たってはそのノウハウを発揮できるようにすることが順当です。もっとも工事発注に当たっては、工事予定者の立場は外して改めて複数の施工会社による競争入札とすることで、価格の透明性を確保して国民への説明責任を果たせるようにすることのメリットが考えられます。また入札時に、減額案と工期短縮の提案を求めることで、更に広く施工会社の英知を結集することも可能になります。

この大きな転換のもとにナショナルスタジアムを立派に完成させるためには、今回の反省を踏まえて発注責任者と設計責任者がしっかりとしたリーダーシップを発揮できるようにすることと、国民に向けたわかり易い情報公開が不可欠です。

今月末のIOC総会で、誘致の際プレゼンテーションを行った安倍首相自らが設計内容の変更を世界に向けて説明すれば、国際的信用を失墜させることもないと考えます。また国内においても、更に強力な政府トップによるリーダーシップが求められます。

計画内容、工事費、工期が複雑に絡まったナショナルスタジアム造りにおいて、市民、政府、建築界が一丸となって今般の事態に対応すれば、次世代に誇れる結果を出せると確信いたします。

本会では第三者の専門家団体として、設計条件の見直しによる事業費の大幅な削減案の作成や市民に対する情報の整理と公開など、今後の具体的進行に当たって全面的な支援と協力を惜しまない所存です。

以上

募集！

新国立競技場の問題あるいは芦原会長の提言発表について、
ご意見をお持ちの方は是非「ARCHITECT」にご投稿下さい。掲載させていただきます。

「ARCHITECT」編集部（建築ジャーナル　山崎）
〒461-0001　名古屋市東区泉1－1－31　吉泉ビル7階　TEL：052-971-7477　FAX：052-951-3130　Eメール：yamasaki@kj-web.or.jp

09_アーキテクトcs6.indd 17　15/08/20 17:06

JIA アクションプラン策定特別委員会設置

本部理事　鳥居 久保

第228回理事会は2015年6月25日（木）13時00分～14時20分までの、総会直前の時間帯を使い、建築家会館3階大会議室にて行われた。出席者は会長以下、理事22名、監事2名、事務局2名、欠席理事2名、オブザーバー7名。

【審議事項】

1.入退会承認の件（事務局）

1）新規入会希望：正会員17名、準会員：ジュニア2名、学生8名、協力会員：個人1名、法人5名

種別変更：シニア4名、個人協力1名

退会希望：正会員23名、シニア1名、法人協力12名、死亡3名

以上、承認。

2）会員数4,019名（6月25日現在）

2.委員会委員委嘱承認の件（筒井専務理事）

①公益事業委員会の委員委嘱承認

新委員：星野治（関東甲信越）、進藤勝人（東北支部）、鈴木利明（東海支部）

②建築家資格制度委員会の委員委嘱承認

新委員：大嶺亮（沖縄支部）、退任委員：當間卓（沖縄支部）

3.法律顧問委嘱承認の件（筒井専務理事）

松浦弁護士の代わりに竹川忠芳弁護士を7月より法律顧問として委嘱することを承認した。なお、松浦弁護士には長きにわたるJIAへの貢献に対し、感謝状と謝礼を贈ることも併せて承認した。竹川弁護士は本部と契約。本部と関東甲信越で顧問料を負担。他の支部で相談事項があれば、竹川弁護士に相談をかけられるが、地域性を考慮すれば地元の事情を知る地域の弁護士と各支部が個別で顧問契約を持つことを勧める。

4.（仮称）JIAアクションプラン策定特別委員会承認の件（筒井専務理事）

JIA基本政策諮問会議答申書（2014年7月）を受けて、短中期のアクションプランを策定するための委員会設置を承認した。委員会構成は関東甲信越4名、他支部4名程度で多くても10名ほど。短中期の実施計画は2020年。

- タブーをつくらず、なんでも議論すべき。例えば専業、兼業の問題さえも議論すべき。
- 「答申書」を支部、地域会で議論して問題意識を持つ。
- JIA内部だけでなく、外部の意見も取り入れるべきという提案もあるが、まずはこの枠組みで立ち上げ、スタートする。その後、さまざまに展開があっても良い。

5.総会における委任状の取り扱いについての件（筒井専務理事）

- 白紙委任の場合は会長委任とみなす。
- 議長は投票に加わらず、可否同数の場合のみ投票する。

上記の扱いを前年と同じく総会前の理事会で承認した。

【報告事項】

1.フェローシップ委員会報告（道家駿太郎フェローシップ委員会委員長）

フェロー会員の会員バッジを制定に向け、デザインを検討中。現JIA会員バッジに一回り大きくプラチナ（シルバー）色の枠を追加して、フェロー会員のバッジとしたい。

2.JIA組織図（案）について報告（森暢郎副会長）

JIA環境行動ラボとJIA修復塾はそれぞれ独立した行動体として直接社会と関われるようなポジションが適当として、森副会長よりこの2つは組織上「公益事業体（仮称）」として位置付けることが提案された。（当初はJIA環境会議やJIA保存再生会議のWGとしての位置づけが検討されてきたが理事会で、WG化は不適当としてきた。）

3.活動及び業務執行状況報告

①公共建築発注方式の多様化への対応報告

公共工事の発注方式について5会（3会＋学会＋日建連）で研究会を発足させて検討することとした。その第1回目を7月中旬に開催予定。発注に多様な選択肢があるのはよいが、5会としての判断の基準を明確にして、今後意思表明を行う。

②改正建築士法の普及活動等に関する報告

改正建築士法が6月25日より施行される。各地で行われてきた講習会も終了した。クライアントの発注責任が明確になり、工期や設計料の適正化のため、われわれは行動する後ろ盾を持つことになった。今回の士法改正の場で3会連携が大きな力を発揮したことは、今後3会協力の良き指針となろう。

4.その他

今の時点で会員数4043票中、（出席＋委任状＋書面表決）の合計が2351票58.2%となり、総会成立、議案成立となる見込み。

◎臨時理事会

2015年6月25日（木）17時30分～18時00分建築家会館3階大会議室にて臨時理事会が開かれた。出席者は会長以下、理事23名、監事2名、事務局2名、欠席理事2名。

【審議事項】

1.支部長選任の件

直前の総会で北陸支部の近江美郎氏と沖縄支部の當間卓氏の理事就任が決議された。それを受けてこの臨時理事会にてそれぞれの支部の支部長として選任された。

2.その他

JIAまちづくり全国会議を6月10日、立ち上げた。議題は、日本版CABE推進、良質な建築、美しいまちづくりの仕組みづくりの共有などで、各委員から意見を徴集した。また、行政と関係性を持つ上では、近畿支部が実践している、自治体との災害協定締結というアプローチが、最も手掛けやすく、効果的である。この防災協定締結という手法を以て、今後各自治体に働きかけCABEへとつなげていく可能性を、全国会議として確認した。9月の全国大会の金沢に続き11月の東海支部の支部大会の場で、全国会議を開催する予定。

09_アーキテクトcs6.indd 18　15/08/20 17:06

東海支部役員会報告

今回の役員会は、6/25の本部総会前に開催された。本部報告の中に総会議案書を確認する内容のものもありました。また、会員数が4000人を割り込む段階に入ってきており、議案書の「会員規定改正の件」と合わせ、JIAが難しい局面に差し掛かっていることが感じられた。

矢田義典｜矢田義典建築設計事務所

日　時：2015年6月11日（木）16：00～18：00
場　所：昭和ビル5階　JIA東海支部会議室
出席者：支部長、本部理事2名、幹事9名、監査2名、
オブザーバー 7名

1.支部長挨拶

6/25に本部総会が開催されます。委任状も含めて出席をお願い致します。

2.報告事項

(1) 本部報告

①第226回 理事会（5/12）（鳥居）

※「ARCHITECT」7月号P21理事会レポート参照

②第227回 理事会（6/3）（石田）

※「ARCHITECT」8月号P20理事会レポート参照

③第16回フェローシップ委員会（5/11）（谷村）

新規入会、種別変更、退会希望は全て承認されている。また、2名の資格停止希望者がリストアップされたが、東北支部の会員に関しては理由を明確にしてもらうため保留とし、四国支部の会員に関しては承認された。フレッシュマンセミナーが6/12にJIA建築家クラブで開催されるが、今回東海支部からの派遣は見送った。フェロー会員について、会員証は特に必要なく、バッジをデザインするといった意見があった。

④第1回広報委員長会議 第2回広報委員会（5/25）（奥野）

関東甲信越支部が来年から支部大会を開催する。JIAマガジンについて、今後本部と支部の広告のスタンスを調整、相談して行く。ホームページは、現在、入会案内、申込書、会員種別をつくり直している。HPWG主査が沖縄の金城さんから近畿の後藤さんに変わり、メルマガWG主査が中澤さんと市村さんの二人体制となった。北陸、九州、沖縄の支部広報委員長が新任された。

⑤ CPD評議会（5/29）（塚本）

5/29に本部CPD評議会が開催され、135件のCPD申請がありました。単位を5年60単位から3年36単位にしたいとの意見があった。また、JAIECの担当者より、昨年20,000弱のCPD申請があり、実績証明を発行したものが36物件に上っているとの報告があった。

(2) 支部報告

①正会員退会届：「池田富士夫」「建部謙治」（谷村）

②正会員移動届：「佐伯　博（関東甲信越より）」「沼田叡良（関東甲信越より）」「吉田　光（近畿より）」「金井豊（関東甲信越へ）」（谷村）

③種別変更届：「小澤幸吉（正会員→ｼﾆｱ）」「谷口　元（正会員→ｼﾆｱ）」（谷村）

④支部総務委員会（6/11）（見寺）

決算の確認をしつつ支部会費を取るか地域会費をどうするかの議論がなされた。

⑤第22回JIA東海学生卒業設計コンクール（5/30）（吉川）

5/30に名古屋都市センターで開催され、上位6作品が6/27、6/28の全国卒業設計コンクールに進んだ。2週間展覧会を行い、約2500人の来場があり、JIAのPRに役立った。

⑥第3回JIA東海住宅建築賞2015（6/20）（吉元）

6/20に公開一次審査会を名古屋大学ES総合館ESホールで開催。応募が51（辞退があり49）作品あり、協賛金は約200万円弱集まった。

⑦アーキテクト 編集について（牧）

8ページ減の総ページ数16ページになる予算削減も含めた検討を行い、16ページにした場合の台割の説明があった。ただ、1年に2回は24ページとし、10月号から16ページとする。

(3) 各地域会からの報告（各地域会長）※P21地域会だより参照

1.審議事項

①入会届 学生会員「小川千尋」「小林希衣」（中西）承認

②入会届 法人協力会員「（株）佐野制材所」（村松）保留
建設業の登録があるため確認を行うこととする。

③入会届 個人協力会員「近藤友一」「鷲見雄史」「関　博」（村松）承認

2.協議事項

①「子どもの建築学校委員会」組織づくりについて（鈴木賢一）

建築家大会2015金沢にて各支部で「建築と子供たち」の活動実践報告をお願いしたい。日時は9/17 16:00～18:00、会場は金沢21世紀美術館 シアター21。広報を理事会で各支部にお願いする。また、各地域会で子どもの建築にかかわっている方をご紹介下さい。

②本部「公益事業委員会」組織づくりについて（石田）

支部長一任で委員の人選を行う。

3.その他

①「2015JIA事業活動助成金」募集について（久保田）

目的、活動内容を上手く表現し、応募するときは少し多めの金額にする。また、他団体から協賛していただく場合はその内容も明記するとよい。申込期限は第1回（前期）が7/31。

②JIA災害対策支援ネットワークについて（石田）

全国会議ではなく連絡網で、東海と北陸でメーリングリストも作ろうと考えている。静岡の杉山さんから会議の依頼が来ており、杉山さん、愛知 竹中さん、岐阜 大瀧さん、三重 奥野さんで近いうちに会議を行う。

③アーキテクト 賛助会広告掲載について（久保田）

各地域会の条件でフォーマットを埋めて下さい。

【監査意見】

女性の学生会員が入会され、倫理規定をしっかりすべきではないかと思います。また、子どもの建築の件で、保険等はどうしているのか検討して下さい。それから、協議の前に資料を配信するのはまずいので、チェックしてから配信して下さい。（中村）

09_アーキテクトcs6.indd 19　15/08/20 17:06

保存情報　第166回　JIA愛知保存研究会

登録有形文化財　長島山崇覚寺（ちょうとうさんそうかくじ）

本堂正面

本堂格天井

組み手彫刻

■紹介者コメント

大須の南側から東別院の間にお寺がたくさんある。その中に割と敷地の小さい崇覚寺がある。山門をくぐると緑が多く、空気が変わったような雰囲気に包まれる。

長島山崇覚寺（ちょうとうさんそうかくじ）は真宗大谷派の寺院として勢州桑名郡長島の中川村にあったが、寛永年間（1624～1643）巾下堀詰町に移った。

正徳年間（1711～1715）に再び、東本願寺掛所の西側の現在地（名古屋市中区橘2-6-15）に移転した。現在の崇覚寺本堂は、幕末の慶応2（1866）年に建てられた瓦葺きの木造平屋で、尾張を代表する名工、「伊藤兵左衛門」（八世守富）が棟梁を務めた。崇覚寺は戦災を免れ、現在に至っている。

本堂には格天井が張られているが、この時代に格天井を使えたのは東別院と崇覚寺だけである。東本願寺のゆかりの文書も所有している。

寛文5（1665）年に、このあたりが町屋になり、春秋2回の芝居興行が許され、崇覚寺（現在の愛知産業大学工業高等学校）の東に芝居小屋（橘座）が建てられた。享保16（1731）年、7代藩主徳川宗春の代になって、彼の積極策により東西の名優が競って来演し絢欄たる芸の花を咲かせたと語り継がれている。元文4（1739）年、宗春の失脚で中断したが、幕末には再び活気を取り戻した。

その名残もあり、昔のような賑わいを取り戻そうと、東西別院と地域の商店有志らが「東西別院寺町まちづくり協議会」を結成して活動を始めた。東別院を中心として、2013年より毎月28日に「暮らしの市実行委員会」によって「東別院てづくり朝市」が発足し、崇覚寺の住職も協議会のメンバーとして、来場者にもっとまちを歩いてもらい、人と人の輪を広げようと考えている。東別院では以前より毎月12日に野菜や衣料品の露天が並ぶ御坊縁日「一如さん」が開催されている。

崇覚寺は、つい最近平成15年7月17日に登録有形文化財に選ばれた。

所在地：名古屋市中区橘2-6-15
所有者：宗教法人崇覚寺
建設年代：慶応2（1866）年

神谷勇雄｜
ユウアンドアベトウ

登録有形文化財　名古屋カテドラル 聖ペトロ・聖パウロ大聖堂（通称:カトリック布池教会）

■紹介者コメント

カトリック布池教会は、正式には名古屋カテドラル 聖ペトロ・聖パウロ大聖堂といい、2015年3月13日、国の文化審議会が下村博文文部科学大臣に答申した登録有形文化財（建造物）171件の一つである。1960（昭和35）年3月に着工、1961（昭和36）年12月に竣工し、1963（昭和37）年3月21日に献堂式、同年4月16日に、愛知県、岐阜県、石川県、福井県、富山県を管轄区域とする名古屋教区の司教座聖堂（カテドラル）に昇格した。1992（平成4）年10月5日には、名古屋市都市景観重要建築物に指定されている。現在も毎週日曜日には塔の鐘が鳴らされ、厳かにミサが取り行われている。

建築の様式は、西洋のゴチック建築を模し、内外ともコンクリート打ち放とし、その肌合いと重厚感は中世の石造伽藍を彷彿させる。建築規模は、敷地面積6,236㎡、建築面積1,011.00㎡、延べ床面積2,393.75㎡、鉄骨鉄筋コンクリート造、切妻造り銅板葺。桁行49m×張間18m、地下1階、地上4階、塔屋付。棟高21.5m、鉄筋コンクリート造角塔30.8m、鉄骨造の尖塔高さ50.2m。建築工事費107,820,000円。建設後既に50年以上経過しているが、耐震強度は、耐震診断（2003年竹中工務店実施）の結果、耐震指標Is値の0.6以上が確認されているので、耐震改修促進法上の目標値は確保されている。

南側正面

身廊

尖塔と東側側面のバットレスと吐水樋

建物の配置は採光を配慮して、通常の東西軸でなく南北軸とし、南正面は半地下式の集会場の上を広い階段と基壇とし、左右の双塔と切妻の本堂によりゴチック様式の立面を構成している。東西側面は柱型を突出させバットレス状とし、その結節点の水切り勾配を造形化し、軒には怪獣こそないが吐水樋を突出させ外壁の汚れを防いでいる。

教会関係者の文化財にふさわしい日常の維持管理の努力と相まって、地域のランドマークとしても高品質の施設と評価される。

所有者：宗教法人　カトリック名古屋教区
所在地：愛知県名古屋市東区葵1－12－23
設計監理：㈱山下寿郎設計事務所名古屋支社（現：㈱山下設計　中部支社）
施工：㈱竹中工務店　名古屋支店
問合せ：カトリック布池教会TEL 052-935-6305
交通機関：①名古屋市営地下鉄東山線　新栄町駅から約550m　②名古屋市営地下鉄桜通線　車道駅から約600m　③JR中央本線千種駅から約720m
見学時間：平日と日曜日（7:00～21:00）但し礼拝中を除く

森口雅文｜
伊藤建築設計事務所

09_アーキテクトcs6.indd 20　15/08/20 17:07

東海とっておきガイド㊷ | 愛知編 |

黒川喜洋彦（黒川建築事務所）

須成祭

海部郡蟹江町の須成祭は、蟹江町北部の須成地区にある冨吉建速神社・八剱社両社の祭礼として行われる川祭である。（8月第1土曜日宵祭、翌日曜日朝祭）

100日祭といわれ多くの行事が行われる。宵祭りでは365個の提灯を灯した巻藁船が蟹江川を下り、そのために跳ね上げ橋の御葭橋が設置されている。華やかな車楽船の出る行事と1年の穢れを植物の葭に託して川に流す神葭流しの2つの行事を中心に祭りが構成されていて、平成24（2012）年3月に国指定重要無形民俗文化財に指定された。ほぼ3カ月にわたり執り行われ、我が国の夏の祭礼やその変遷を理解するうえで重要であるとされている。

巻藁船と御葭橋／蟹江町のウエブサイトより

いな饅頭

木曽三川の袂に位置する蟹江町は人口約3.7万人、町の5分の1が大小の河川面積で吉川英治氏により東海の潮来と称されたほどの水郷地帯です。子どものころには川船を設えて茶会をしながら川を下り、その間ボラ・イナが舟に飛び込むのを七輪で焼いて食した記憶がまだ新しい。出世魚であるイナは栄養価が高く昭和20年代には多くの文人が蟹江を訪れている。その蟹江に今も伝わる食文化に「もろこ寿司」「ふな寿司」（押し寿司）と「いなまん」がある。腹を開きギンナンやシイタケを練りこんだ豆味噌を詰めこみ焼きこんだもので、三河地方独特の味噌の風味がしみ込んだ絶品である。

いなまんといな饅頭
いな饅頭を食べられるお店（要予約）
■いなまん（海部郡蟹江町川西53）
TEL0567-95-2715
■丸河（海部郡蟹江町城2-100）
TEL0567-95-1001
■湯元館（海部郡蟹江町学戸6-300）
TEL 056795-3454

地域会だより

＜東海支部＞

7/23～24 東海住宅建築賞 第2次審査
8/25 支部大会実行委員会第13回
9/17 子どもの建築学校委員会
建築家大会2015金沢「シンポジウム／子供×建築」
9/26 2015年度 支部会員集会・東海支部建築家講習会
（※詳細はP23に掲載）
10/2 支部役員会
10/10 東海住宅建築賞 表彰式
10/24 東海支部設計競技 1次審査
10/30 支部役員会
11/13～14 東海支部大会2015

＜静岡＞

8/7 地域会定例拡大委員会、第1回JIA塾、暑気払い
8/21 静岡県災害対策士業連絡会理事会に出席
8/25 第3回ものづくりフェア委員会の開催
9/10 地域会定例役員会の開催
9/19～21「静岡県住まい博2015」に相談員を派遣

＜愛知＞

8/5 JIA・愛知賛助会役員会
8/7 役員会、暑気払い
8/27 住宅研究会セミナー「ウチのサイフと地球の財布」
9/3 住宅研究会セミナー「伊礼智さんの住宅の作り方」
9/5～6 事業委員会「ダンボールカード造形教室」
10/4 事業委員会「天使の森」／不燃・防腐木材工場見学会＋
環境セミナー「環境と産業を考える」
10/9 役員会、CPD研修会
10/24～25 住宅研究会 近畿支部見学ツアー

＜岐阜＞

7/22 地域会 第2回 役員会 開催 18:00～20:00
場所：ハートスクエアG 小研修室
8月予定 地域会 第3回 役員会 開催
場所：ハートスクエアG 小研修室

＜三重＞

7/28 第3回役員会、第2回例会、会員研修会2（キッチンハウスS/R）、
暑気払い※台風11号の影響で7月17日から日程変更
8/6 第4回役員会
8/22 「みえ歴史的町並み防災・復興研究会」第3回公開研究会
9/11 第4回例会 会員研修会3
（森羅万象匠塾）「万協製薬 松浦信男氏」

09_アーキテクトcs6.indd 21 15/08/20 17:07

残暑お見舞い

㈱ 石井建築事務所 代表取締役会長　増澤信一郎 代表取締役社長　鈴木俊之 静岡県熱海市田原本町 3-1 熱海魚熊ビル 2 階 TEL 0557-82-4171　FAX 0557-82-4174	尾林建築構造設計事務所 尾林孝雄 静岡市葵区瀬名 7-11-20 TEL 054-264-9752　FAX 054-264-8017	㈱ 公共設計 代表取締役　関戸敏訓 静岡県 浜松市砂山町 353-3 大協土地ビル 7 F TEL 053-455-4402　FAX 053-455-0154
企業組合　針谷建築事務所 理事長　鳥居久保 相談役　高田雅司 静岡市駿河区小黒 3-6-9 TEL 054-281-1155　FAX 054-282-5502	㈲ 村松篤設計事務所 代表取締役　村松篤 静岡件浜松市中区富塚町 1933-1 佐鳴湖パークタウンサウス 517 TEL 053-478-0538　FAX 053-478-0492	アール・アンド・エス設計工房 所長　谷村　茂 名古屋市千種区猫洞通 4-30 安田ビル 3 F TEL 052-782-3452　FAX 052-782-9941
㈱ 石本建築事務所 名古屋支所 取締役支所長　植野　收 名古屋市中区栄 4-3-26 昭和ビル TEL 052-263-1821　FAX 052-264-1990	㈱ 伊藤建築設計事務所 代表取締役会長　森口雅文 代表取締役社長　小田義彦 名古屋市中区丸の内 1-15-15　桜通ビル TEL 052-222-8611　FAX 052-222-1971	㈱ 浦野設計 取締役会長　浦野三男 代表取締役社長　浦野廣高 名古屋市西区八筋町 90 TEL 052-503-1211　FAX 052-503-1213
㈱ 城戸武男建築事務所 代表取締役　城戸康近 名古屋市中区丸の内 2-11-23 TEL 052-231-5451　FAX 052-231-5450	久保田英之建築研究所 久保田英之 名古屋市東区東大曽根町 29-11　共栄ビル 5C TEL 052-979-0755　FAX 052-979-0756	㈱ 黒川建築事務所 代表取締役　黒川喜洋彦 名古屋市昭和区鶴舞 2-10-5 TEL 052-882-0281　FAX 052-871-1884
㈱ 黒野建築設計事務所 代表取締役　坂田　孝之 名古屋市緑区鳴海町字北浦 29 TEL 052-892-1711　FAX 052-892-8957	光崎敏正建築創作所 光崎敏正 名古屋市千種区四ツ谷通 1-7　ビレッジ四ツ谷 2F TEL 052-781-5523　FAX 052-781-8824	㈾ 三共建築設計事務所 服部　滋 名古屋市中区伊勢山 1-1- TEL 052-321-9591FAX　052-321-9594
㈱ 三和建築事務所 取締役社長　見寺昭彦 名古屋市港区港栄 4-5-5 TEL 052-661-2211 052-661-2247	㈲設計室ユウアンドアベトゥ 神谷勇雄 名古屋市昭和区川名町 5-23　カーサ U 1F TEL 052-762-0789　052-762-0679	㈱ 田中綜合設計 代表取締役　佐藤東亜男 名古屋市中区丸の内 1-8-39　HP 丸の内ビル TEL 052-211-4035 052-201-9285
㈱ 地域計画建築研究所 名古屋事務所 取締役中部担当　尾関　利勝 名古屋市中区錦 1-19-24 名古屋第一ビル TEL 052-202-1411　052-220-3760	㈱ 中建設計 代表取締役社長　石田　壽 名古屋市中区栄 2-2-12　NUP 伏見ビル TEL 052-222-7850　052-222-7856	中日設計 ㈱ 取締役社長　清谷英広 名古屋市東区筒井 2-10-45 TEL 052-937-6711　052-937-6881

09_アーキテクトcs6.indd 22　15/08/20 17:07

申し上げます

（静岡・愛知・岐阜・三重地域会　五十音順）

一級建築士事務所 デザイン スズキ 鈴木　利明 豊橋市東小鷹野 4-4-8 TEL 0532-61-4245　FAX 0532-61-4215	㈱ 東畑建築事務所 名古屋事務所 代表取締役社長　香西喜八郎 執行役員名古屋事務所長　西村　隆男 名古屋市中村区太閤 3-1-18 名古屋 KS ビル TEL 052-459-3621　FAX 052-459-3623	㈱ 中建築設計事務所 取締役会長　森川　礼 代表取締役　廣瀬高保 名古屋市中区新栄 1-27-27 TEL 052-262-4411　FAX 052-262-4414
㈱ 錦建築設計 代表取締役　栢本良三 取　締　役　黒田浩之 名古屋市中区栄 2-1-12　ダイアパレス伏見 301-B TEL 052-232-3911　FAX 052-232-3912	藤巻建築設計事務所 主宰者　藤巻志伸 名古屋市昭和区村雲町 28-5 TEL 052-822-3110　FAX 052-822-8402	㈱ ヤスウラ設計 代表取締役　水野豊秋 名古屋市中区新栄 2-35-6 TEL 052-241-7211　FAX 052-241-7333
㈱ ワーク・キューブ 桑原雅明　吉元　学　平野恵津泰 名古屋市昭和区福江 1-7-2 TEL 052-872-0632　FAX 052-872-0633	㈱ 車戸建築事務所 代表取締役　車戸愼夫 岐阜県大垣市鶴見町 73-3 TEL 0584-78-8311　FAX 0584-73-3401	㈱ デザインボックス 代表取締役　山田貴明 岐阜市日野南 9-1-10 TEL 058-240-7899　FAX 058-240-7866
㈱ 藤井設計 代表取締役　藤井孝一 岐阜県各務原市那加門前町３－８３ TEL 058-383-9516　FAX 058-383-9519	清水設計事務所 代表　清水一男 津市栄町 1-803 TEL 059-227-1854　FAX 059-227-2268	shu 建築設計事務所 代表　中西修一 三重県多気郡明和町明星 1754-3 TEL 0596-52-6400　FAX 0596-52-6439
㈱ 中村建築設計事務所 代表取締役　中村　久 三重県員弁郡東員町北大社 1325-9 TEL 0594-76-2102　FAX 0594-76-8717		

Bulletin Board

東海支部建築家資格制度委員会主催

2015 年度 JIA 支部会員集会・東海支部建築家講習会

CPD 認定プログラム　４単位

日時：2015年9月26日（土）　13：00 ～17：45

場所：名古屋市中区栄4-3-26　昭和ビル9F大会議室

趣旨・概要：

○東海支部会員集会（13：30 ～15：30）

会員規程の改正および建築家資格制度規定・細則改定準備の推移説明と意見交換（集会参加費はなし）

○東海支部講演会（15：45 ～17：45）

登録建築家としての見識を深めつつCPD単位を取得してもらう。部構成の講習会とする。受講料は1,000円程度を予定。

09_アーキテクトcs6.indd 23　15/08/20 17:07

法人協力会通信⑲
＜愛知＞

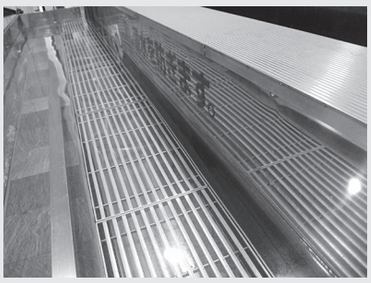
いま求められているのは、「安心と安全」

吉澤智博｜ホクセイ㈱営業開発部

ホクセイは、昭和48年7月に設立。創業40年以上の技術が安心・安全を作ります。ステンレスのホクセイ・日本で最初にステンレス製グレーチングを製造・販売をしました。グレーチングとは、溝蓋のことです。

近年、増えてきているのが「水害」。その中でも大雨による被害が増えてきています。

そこで弊社は、水害からの被害を守る「止水板」を開発いたしました。止水板は水の侵入が考えられる入口などに設置し、水の侵入を防ぎます。従来の止水板は人の手で設置したり、スイッチを入れたりと、どちらも人の手によって設置されますが、弊社の止水板は電源なしで、自動で設置されます。フロート式になっており大雨などで流れた排水がオーバーフローすることによりユニットに水が溜まって止水板が下から上がってくるというシステムです。よって24時間無人でも、雨が降り排水能力がオーバーしたとき水が溜まり、止水板が上がり設置されます。通常の雨では、排水が流れているので止水板が上がってくることはありません。



フロート式自動止水ユニットグレーチング

現在、大雨のとき、地下鉄の入口やマンションなどの入口に土嚢を並べていますが、手間と時間がかかります。しかも水が流れ込んでいる中での作業はとても危険です。

地下鉄入口は数10カ所、数100カ所ある中すべての個所に短時間で止水板の設置をしたり土嚢を並べることは難しいです。そこで弊社の止水板の登場です。

いつ・どこで何が起こってもおかしくない時代、弊社は24時間無人対応のフロート式止水ユニットグレーチングを開発いたしました。「安心と安全」を届ける為に。

●ホクセイ㈱本社
三重県桑名市大字江場3-118-26
TEL 0594-21-9660　FAX 0594-21-9676

編集後記

●10月号より東海支部機関誌「ARCHITECT」の頁数が24頁から16頁になります（年2回は24頁の月を設ける予定）。今年度に入ってから会報・ブリテン委員会の編集会議にて、予算削減のための頁削減を検討してきました。会報誌として何を残していくのか…会議の中でいろいろな議論がありました。連載・その他記事を含め、しばらく様子を見ながらということになると思います。デザインも建築も同じだと思いますが、付け足していくのではなく削ぎ落としていくことで、そのものの本質が明らかになっていく場合も多々あるのではないでしょうか。機関紙「ARCHITECT」は全体としての文字総量が減りますが、内容がより吟味されることで豊かに鮮明になっていくことができたらと思います。「ARCHITECT」はJIAと東海支部をつなぐ機関誌として、会員と東海支部をつなぐ会報誌として、この先も会員の皆様のご協力が不可欠であります。今後ともよろしくお願い致します。

（牧ヒデアキ）

●新国立競技場建設問題が注目され、あらためて建築生成にかかる問題がクローズアップされている。本誌8月号編集後記にその概略の経過が、本号にも「新国立競技場建設についてのJIAの提言」の記事が載せられている。やはり組織・個人問わず発注側の主体性のあるコンセプト立案・PMの能力、プロとの関係性が重要だと思う。また、吉元学氏寄稿の『「ふすま」で「さんぽ」してきました』では、8月末に開催される「ウチのサイフと地球のサイフ」が紹介され、一軒一軒の家づくりの持つ重さについての時代性への問いかけが印象に残った。JIA東海学生卒業設計コンクール金賞の松岡君の寄稿の中の「花祭り」に、自身の学生時代、花祭りの里をほっつき歩いたことを思い出した。「ふるまいの共生」という言葉に、東日本大震災後の復興過程で祭りの持つ様式性が共同体を「にがり」のように再凝縮させる素晴らしさを目の当たりにしたことや、祝祭性が孕む多少の危うさも含め、考えさせられた。

（前田佐智男）

ARCHITECT
第324号
発　行　日　2015.9.1（毎月1回発行）
定　　価　380円（税込み）
発行責任者　石田　壽
編集責任者　牧ヒデアキ
編　　集　東海支部会報委員会
愛知地域会ブリテン委員会
建築ジャーナル内
ARCHITECT 編集部
名古屋市東区泉 1-1-31 吉泉ビル 703
TEL（052）971-7479　FAX 951-3130
発　行　所　（公社）日本建築家協会東海支部
名古屋市中区栄 4-3-26　昭和ビル
TEL（052）263-4636　FAX 251-8495
E-Mail：shibu@jia-tokai.org
http://www.jia-tokai.org/

09_アーキテクトcs6.indd 24　15/08/20 17:07